

第 45 回経営協議会議事録

- I 日 時 平成 23 年 5 月 25 日 (水) 15 : 00~17:10
- II 会 場 筑波大学大学院 (東京キャンパス) 仮校舎 : 住友神保町ビル
「513K 講義室」 (東京都千代田区神田神保町 3-25)
- III 出席者 [学外委員]
秋元 勇巳、大崎 仁、金澤 一郎、古賀正一、柴崎信三、末松安晴、西野虎之介
[学内委員]
山田信博、清水一彦、赤平昌文、西川潔、森本浩一、鈴木久敏、宇川彰、五十嵐徹也、東照雄
[オブザーバー]
永田恭介学長補佐室長、今井調整官
玉川信一芸術専門学群長
大塚藤男医学群長

IV 議 題

[学長所信表明] ----- [席上配付資料]

[審 議]

- (1) 平成 23 年度年度計画の変更について ----- [審議 1 資料]
(2) リバースオークション (競り下げ) 方式による入札の導入について ----- [審議 2 資料]

[報 告]

- (3) 東日本大震災後の状況について ----- [報告 1 資料]
(4) 平成 23 年度補正予算 (第 1 号) について ----- [報告 2 資料]
(5) 平成 22 年度に実施した大学機関別認証評価の結果について ----- [報告 3 資料]
(6) 平成 23 年度学群及び大学院入学試験実施結果について ----- [報告 4 資料]
(7) 平成 22 年度卒業生・修了者の進路状況について ----- [報告 5 資料]
(8) 経営協議会学外委員からの提言への対応 (平成 22 年度) について ----- [報告 6 資料]
(9) 第 85、86 回教育研究評議会報告 ----- [報告 7 資料]

[部局の活動報告及び意見交換]

芸術専門学群長

V 議 事

[学長所信表明]

審議事項に先立ち、学長から平成 23 年度の所信表明について、席上配付資料に基づき説明があった。

[審 議]

- 1 平成 23 年度年度計画の変更について
宇川副学長・理事及び森本副学長・理事から、審議 1 資料に基づき、平成 23 年度年度計画の変更について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
- 2 リバースオークション (競り下げ) 方式による入札の導入について
森本理事から、審議 2 資料に基づき、リバースオークション (競り下げ) 方式による入札の導入について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。
各委員からの主な発言等は以下のとおり。(以下、○は委員の発言、△は本学側の回答)
○ テスト (81 件) というのは、どの種の物品について行ったのか。
△ 汎用的なもの、例えばビーカー類や医薬品、文房具等である。

- 対人サービスや顧客サービスなどの役務は対象になるのか。
- △ 役務はいろいろな形で質を担保する等、チェックが必要になるので、なかなか仕様書どおりにいかない面があり、そこまではまだ踏み切ることができていないが、経験を積みチェック機能がうまくできれば、広げていく可能性はあると思っている。

〔報告〕

3 東日本大震災後の状況について

森本副学長・理事から、報告1資料に基づき、現在の被害状況、復旧状況等について報告があった。

4 平成23年度補正予算（第1号）について

森本副学長・理事から、報告2資料に基づき、平成23年度補正予算（第1号）について報告があった。

5 平成22年度に実施した大学機関別認証評価の結果について

宇川副学長・理事から、報告3資料に基づき、平成22年度に実施した大学機関別認証評価の結果について報告があった。

- 法学の不振というのは、他大学でも厳しい結果が出ているということか。
- △ 法学については他の大学も同じような傾向である。本学は、もともと法学専攻は一貫制だったが、それを3、4年前の改組で区分制にしたが、後期の需要がだんだん少なくなってきており、早めに対策を講じようと考えている。
- 定員を上回っている専攻は、強いところであり、むしろ自然膨張的に増やすべきではないか。認証評価機関の指摘は気にしなくてよい。数理工学物質科学研究科の1.7倍というのは非常に良い傾向であり、突出したところをこれからは強調しなければならない時代である。
- △ 数理工学物質科学研究科は、物質材料研究機構との連携大学院において非常に人気がある。TIA（つくばイノベーションアリーナ）もこの連携から伸びてきたものであり、さらに発展させなければならないと考えている。

6 平成23年度学群及び大学院入学試験実施結果について

清水副学長・理事から、報告4資料に基づき、平成23年度学群及び大学院入学試験実施結果について報告があった。

7 平成22年度卒業生・修了者の進路状況について

西川副学長・理事から、報告5資料に基づき、平成22年度卒業生・修了者の進路状況について報告があった。

- 学群の「就職活動中の者」というのは就職浪人、卒業してさらに就職にチャレンジしているという人だと思うが、例えばいわゆる留年してもう1回チャレンジするような学生が今かなり増えている。そういう人数は把握されているのか。それから、こういう人たちに対し、どういう就職指導を引き続きされているのか。
- △ 就職するために留年が若干見られるが、数字としては10~20名ぐらいの数字である。また、在学生の留年者については、当然大学生と一緒に引き続きキャリア支援を行っている。それから卒業生（失業した者）について、例えば就活しているような学生については、東京地区などにサテライトで、キャリア支援室の者が4人待機し、就活している学生に対してサポートしている。

8 経営協議会学外委員からの提言への対応（平成22年度）について

鈴木副学長・理事から、報告6資料に基づき、平成22年度の経営協議会学外委員からの提言への対応（HP公開用）について報告があった。

9 第85、86回教育研究評議会報告

学長から、報告7資料に基づき、前回の本会議以降に開催された、第85、86回の教育研究評

議会の議事の概要について報告があった。

10 その他

学長から、経営協議会学外委員の任期のあり方について見直しを行っており、教育研究評議会に諮ったうえで、経営協議会に報告したい旨、報告があった。

議事終了後、玉川信一芸術専門学群長から、席上配付資料に基づき、芸術専門学群の現状について報告があり、意見交換が行われた。

以 上